

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072400276		
法人名	株式会社オギノ電子工業		
事業所名	グループホームハーモニー		
所在地	群馬県甘楽郡下仁田町馬山2495-1		
自己評価作成日	平成22年11月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成22年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私たちは地域と共に笑顔あふれるグループホームをめざします」という理念達成に向けて職員全員で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者が地元の方で地域に知人が多く、行政とは常に行き来し、話し合いの機会を持っている関係もあり、事業所が希望していた消火栓がホーム前に速やかに設置されたり、これまで利用していた地元の理容師がホームに出向いてくれる等、地域との連携が密にとれている。グループホームと併設の施設とが廊下で繋がっているため、天候に関係なく両者間の交流が出来たり、廊下の往復がリハビリとなって身体機能の維持にも役立っている。高齢者専用賃貸住宅・デイサービス・ショートステイ・グループホーム等の複合施設経営により、今後の地域の福祉サービスとして期待されるもの大きいと思われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは地域と共に笑顔あふれるグループホームをめざします」をホームの理念としている。職員のミーティングの場所に理念を掲示し、理念の共有に努めている。	事業所が目指す地域密着型サービスのあり方を端的に明示した理念を掲げている。理念は職員が目に見える場所に掲示されており、意識しながら実践に向けて努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時など近所の住民と話し交流を図っている。また、近隣の馬山保育園の園児の定期的な訪問も受けている。	代表者は地元の方で地域や行政関係に知名度があり地域との交流に活かされている。保育園児の定期的な来訪や園児が通りに立ち寄ってくれたり、茶道会等のボランティアの訪問等日常的な交流が行われている。地元開催のチャリティショーに招待を受け一部利用者・職員が参加し知人との再会の機会を持った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、下仁田中学校より職場体験学習として生徒の受入を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。会議では自己評価の内容を説明し、外部評価の結果も公表し検討している。	運営推進会議は1年に5回開催しており、うち1回に行政関係者の参加は見られない。事業所から利用者の状況の報告や食中毒や施設等の話題を提供し、参加者と意見交換をしている。食事を作る際、野菜と肉は別なまな板を使用して欲しいとの要望があり、即改善に取り組んだ。会議開催時の昼食の試食は大変好評であった。	運営推進会議を定期的(2ヶ月に1回)に開催することと行政関係者の参加について意識して取り組んで欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の職員は町の担当者と頻繁に行き来してホームの実情や取り組みを協議している。また町の担当者は運営推進会議にも出席して情報提供を行っている。	代表者や職員は相談事や申請代行のために日頃から町の担当者との連絡を密にとり関係を深めている。行政との話し合いで事業所敷地内に消火栓を引くことが出来た。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	該当の具体的な行為については、職員に周知徹底している。ホーム内での身体拘束は一切ありません。	身体拘束をしないケアについての職員研修を行っており、ホーム内での拘束はしていない。玄関の施錠についての工夫は見られるが、家族等の意見もあり鍵をかけている。	利用者が外に出たくなる場面や理由等を観察し、職員の対応の工夫等で、利用者の抑圧感のない暮らしの支援に繋がるよう施錠について再度検討して欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングを通じて虐待の防止について、周知徹底を行っている。事業所独自の「虐待防止に関する誓約書」を作成し意識の徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム事業者が勉強会に参加しているが、具体的な事例がないこともあって、職員が活用できるようにはなっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者およびその家族に対して利用申込契約書書、重要事項説明書を丁寧に説明をして同意書に署名捺印をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から感じ取ったことについてはミーティングで話し合い、解決するようにしている。家族の訪問時には何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見や要望はミーティングで話し合い、反映させている。	利用者の意向や要望は日常の会話からくみ取り、要望等に沿った対応に努めている。家族等の来訪時には気軽に話の出来る雰囲気を作り、出された意見等は職員間で検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が9:00と16:00に行われる打合せ時に職員に対して意見、提案を聞くようにしている。	毎日の申し送り時や職員会議で職員の意見や提案等を聞いている。夜間の利用者の安全を考えて職員からセンサー使用についての提案があり、一部の利用者実践している。玄関にカーテンをつけて欲しいとの職員からの要望にも即対応した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代取の子息である事務長が施設に常駐、又代取も頻繁に施設に訪問しており、就業環境の把握・改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には積極的に参加するようにしている。研修の報告はミーティングで発表してもらって、研修資料は全員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型サービス連絡協議会及び同協会南部ブロックに所属しており、その活動を通じて交流作り、サービスの質的向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申し込みがあった時には、本人にまず面談をして心身の状態や考えていることを把握するようにしている。これによって利用者がホームで信頼関係に裏打ちされたスタートが切れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の申し込みがあった時には、本人と同時に家族とも面談をします。この際に家族が何を求めているのかをしっかりと受け止め事前にホームで話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、できるだけ丁寧に対応するようにしている。相談も2回3回と回数を重ね信頼関係を構築することを心がけている。居宅支援事業所のケアマネジャーにも応援を求めることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者とともに生活する仲間として、人生の先輩であるという気持ちを持って接するようにしている。喜怒哀楽を共に支えあう関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の思い、家族の考えていることを的確に受け止めるよう心掛けている。そして両者の思いが結び付けられるよう職員で話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のうちの何人かはこの関係を継続しているものの、馴染みの人や場所との関係は途切れがちになっている。	昔からの馴染みの理容師さんが散髪に来てくれたり、元教員の利用者にかつての教え子が訪ねてきているので、これらの関係を継続していけるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ時間・食事の時間は職員は全員利用者と同一テーブルで過ごすようにしている。また個別にも話を聞いたり、相談に乗ったりして利用者同士の関係が円滑にいくように職員が調整役になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム退所後も自宅や病院に訪問したりして家族との情報交換は行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声かけやふれあいの中で利用者の真意を推し測るようにしている。また家族や親戚の方から情報を得るようにしている。	日頃の言動からその真意を推し測ったり、声かけによりそれとなく確認をしている。意志疎通の困難な方に対しては家族の面会時や電話等で情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者自身の語りの中から把握に努めている。家族、親戚の訪問時にも把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、睡眠、排泄の時間、生活習慣など1日の生活のリズムを把握して、出来ることを見出して、利用者の全体像を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の要望を聞いたうえで、職員全員で話し合い、介護計画の作成に生かしている。	本人・家族等の思いや意向を基に職員会議で話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。月に1回モニタリングを行い、3ヶ月に1度の定期的な見直し、状態の変化に応じた随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録をつけている。その記録に基づいて介護計画の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を構築し、24時間健康管理、医療活用の強化を図り、多機能化を活かした支援をする体制を整えた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心してこの地域で安心して暮らせるように、消防、警察、学校等と協力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が本人や家族の希望するかかりつけ医に受診している。通院は希望に応じて対応している。基本的には家族同行だが、不可能な時はホーム職員が行っている。	利用者・家族等の希望するかかりつけ医となっている。基本的には家族同行をお願いし、受診前に家族には利用者の状況等を説明している。家族の都合で職員が対応することがあるが、いずれの場合も受診内容を家族と職員は共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、利用者の健康管理や状態変化に対応した支援を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は、職員ができるだけ多く訪問するようにしている。利用者の情報を病院に提供して、早期退院に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの中で該当するような利用者がいないこともあって、重度化した場合や終末期のあり方について、現在看護師を中心に検討をすすめている段階です。	事業所としての重度化や終末期の対応については家族等の希望を重視したいと考えているが、事業所が対応しうるケア等を考慮した基本的な方針については現在検討中である。	事業所としての基本的な対応指針を作成して明文化し、家族等に説明して欲しい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による防火対策・救急救命訓練を実施している。夜勤時の緊急対応マニュアルを作成し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回下仁田消防署に避難訓練への職員の派遣を依頼し、避難技術の向上を図っている。また、運営推進会議で地元の民生委員・住民代表を通じて災害時の協力をお願いしている。	消防署の協力を得て年に2回(1回は夜間想定)近隣住民の参加により避難訓練を実施している。他に自主訓練として夜間想定を含めて年に3回実施している。緊急時の協力・応援等については運営推進会議を通して地域の方をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの折に、利用者の人格を尊重しながら支援に当たるよう指示している。また利用者のプライバシーについては他の家族や外来者に対して絶対に漏らさないよう徹底している。	守秘義務・情報の漏洩・利用者の対応、特に言葉づかい等について徹底を図るよう取り組んでいる。ホール内で行う申し送り時には利用者が特定出来ない様に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員と利用者がよく話し合う中で自分で決めるような場面をつくるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や考えに配慮しながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれができるよういつも支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に準備・片付けをするようにしている。食事の時には利用者と職員が同じテーブルできるようにしている。	利用者の希望を取り入れた食事が提供されている。利用者の力量に応じて準備や片付けを行い、職員と一緒に同じ食事を摂っている。お弁当持参でお花見等に出かけたこともあるが利用者の状況で無理になり、今後はお弁当等をとることを検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表や献立表に栄養摂取状況を記録して、職員が情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけをして歯磨きを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表の記録から、時間や習慣を把握してトイレ誘導することでトイレでの排泄を促している。	排泄チェック表を使用し、習慣や排泄パターンに応じた個別の対応でトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材を工夫したり、運動したりして自然な排便ができるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望とその日の体調を確認し、週2回のペースで入浴を実施している。	月～土曜日には利用者の体調や希望に応じていつでも入浴が出来る体制が確立されている。概ね週に2回の入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動するようにして、生活のリズムを整えて、夜にはゆっくり眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員には薬の内容について把握できるようにしている。更に職員の中で薬の担当者を決めて確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの状況にあわせて、お願いできそうな仕事をしてもらっている。できた時には感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外にはベンチを置くなどして、外で過ごす時間をできるだけ多くするように心掛けている。	利用者の重度化に伴い散歩に出ることが少なくなったが天候のよい日は屋外で外気浴をしている。新設の複合施設と一緒に行事をしている関係でドライブ等、外出の機会が減っている。体力低下を防ぐためにホームから複合施設に通じる廊下を歩いている。	グループホームと他の施設との支援内容の違いを考慮して、グループホーム独自の行事を取り入れ、外に出る機会を増やす工夫をして欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っている人もいますが、基本的にはお金は家族から預かりホームで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば自由に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは木をふんだんに使っている。清潔感をもし出すように心がけている。ホールは吹き抜けで天井が高く居心地のいい空間になっている。	ホールは天井が高く吹き抜けとなっていて、明るく開放的で居心地の良い空間となっている。窓から望める景観は素晴らしく居ながらにして四季の移ろいを感じる事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールには一人で過ごせるようなイスを置いてある。またホール内にソファを配置して、気のあった同士がくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は利用者本人と家族で話し合っ使い慣れた物を持ち込んでいる。	各居室には桐のタンス・鏡・テレビ・時計・洋服掛け・椅子等馴染みの物や思い出の品々が持ち込められ、安心して居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部は利用者にとって自立を意識した工夫をしている。		